

	課題分析	授業改善策
国語	情報を正確に読み取る力と基礎学力（漢字や語彙）に課題がある生徒が多い。また、根拠や理由を上手く説明できず、自分の考えを文章で表現することに抵抗がある生徒が多くみられる。	学習内容を深めるために、班活動や意見交換の機会を増やすとともに、表現するための活動を取り入れていく。またタブレット PC を活用して、表現の楽しさを学ばせる。
社会	思考したことを文章や発表によって表現する力に課題がある。思考するための前提となる基礎的な知識の理解力に差があるためと考えられる。タブレット PC で検索する際、AI の答えを安易に使うことが多い。	授業冒頭の既習事項の確認やグループワークを継続し、基礎的な知識の定着を図る。「なぜ」「どのように」と考える場面を設定し、根拠を明らかにして考えを表現する活動を充実させる。タブレット PC の情報をそのまま使わず、複数の情報を比較・整理し、自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。
数学	教員の授業運営や説明、授業規律については、学習評価アンケートによると生徒から非常に高い評価が集まっている一方、ICT 活用の工夫において効果の実感に個人差が見られる。さらに、自主的な家庭学習（復習等）の実践や計画的な学習習慣の定着が生徒側の大きな課題となっている。	授業内で ICT を活用して個に応じた解説や生徒間の教え合いを組み込み、効果的な理解を深める。授業終盤にはスケジュール帳などを活用して復習計画や解き直し目標を自ら記入させ、十分な問題演習から家庭での自主的な復習へとスムーズにつなぐ計画的な学習習慣の定着を図る。
理科	学習評価アンケートの結果から、授業、教員の指導に対する満足度は高いが、生徒自身の「自主的な家庭学習の習慣化」「計画的な学習の進め方」に改善の余地がある。授業などを通して、自分の考えを表現する活動を行っていることが、意欲につながっていると考えられる。	生徒の学習の習慣化につながるような、テストの実施や、授業内容を振り返ることができるワークシートを活用する授業に取り組む。話し合い活動を深化させるために、実験、観察結果をタブレット PC の活用を通して、理解深め、自分の言葉で表現できることを目指す。
音楽	音楽の特徴を捉えたり、言葉で表現しようとしたりすることに課題がある。また、発声の原理を明確に理解し、実践することに課題がある。	音楽を聴く際には、テンポや強弱、音程、リズムなど、どこに注目するのかを明確し、感じたことを音楽の特徴と結び付けて言葉や発声で表現する活動を取り入れる。
美術	「タブレット PC をもっと使わせて欲しい」「技術向上のワンポイントアドバイスが欲しい」という生徒に対し、より明快に教科の特性や単元のねらいを伝えていく必要がある。	作品制作において、タブレット PC で安易に検索し画像を模倣する危険性（オリジナリティーの喪失）や、観察や試行錯誤の中から自分なりの正解を見つけていく創造の喜びについて、特に個別カウンセリングに力を入れ、個々の課題に対応していく。
保健体育	主体的・意欲的に授業を受ける生徒が多いものの、新体力テストの結果の振り返りの中でそういった情意面が数値に反映されていなかった。また、タブレット PC など ICT 機器の活用頻度が低かった。	タブレット PC など ICT 機器を活用したり、グループでの言語活動を活発にしたりするなどして、自己や他者の課題を改善するための行動を生徒が見つけ、理解した上で、実際にとるような流れを授業内で行う。
技術・家庭	学習評価アンケートの結果から、授業、教員の指導に対する満足度は高い、また ICT を使った学習内容の理解度も高いが、「主体的に学習を行っている。」「スケジュール帳を活用し、定期考査前やそれ以外でも計画的に学習に取り組んでいる。」に改善の余地がある。	タブレット PC や ICT 機器を活用し、生徒の主体的な学習に向けて、振り返りシートや実習レポート以外にもクイズなどの問題を出して家庭学習が定着するように目指す。あと実習以外にもグループ活動ができる時間を設けて授業内容を定着させることを目指す。

外国語（英語）	令和8年度「学習評価アンケート」によると、真剣に授業に参加し学習しようとする意識は高いという姿が回答結果から見られる。しかし、家庭学習につながらず、知識の定着や自己表現力の向上に課題がある。	授業内容と家庭学習がつながっていくような具体的な取組や工夫が必要である。教科に対する肯定的なイメージを育てて学習意欲を維持させるだけでなく、学習した英語を活用できた時の達成感を積み重ねられるような授業づくりをしていく。
----------------	--	--